中華民國史史料外編

厦門大學圖書館珍藏
主編：季嘯風、沈友益

中華民國史史料外編

——前日本末次研究所情報資料

日文史料
第九册

廣西師範大學出版社

要目

總商會を援助し 行政機關設置

通信機關復舊材料は 日本軍から補給する

MAY 15 1928

京城十四日放送(其筋電)　十三日午後藤田青島總領事　西田濟南代理總領事は商總會代表數名と會見し左の要求をした

一、商總會は濟南の治安維持に當るべき行政機關を設置すべし日本軍は是を援助す

一、總商會は速に事件前の狀態に通信機關其他を復舊すべし、是に要する物品は日本軍より補給す

一、總商會は日本側の好意を謝し直に委員會を組織して速に其達成を期するを約した

末次研究所

要目

排日貨に關し責任ある委員會

上海各界團體代表が集まつて各項を決議

MAY 15 1928

京　津

排日の第一聲的烽火をあげる上海各界團體代表者協議會は去る七日午後二時より總商會に於て開會出席者は市黨部各分部、兩路（滬寧、滬杭）排別總部、上海總商會、縣商會、閘北商會、商民協會、及各業分會、商總聯合會、上海學生聯合會各大學聯合會以下十五團體に達し陳德徵氏豪氏を主席にあげ陳氏開會の辭を述べ濟南に於ける日華兵衝突事件と五七記念日に關し悲憤なる演說を試み次で商民協會代表路清華氏經濟絶交の方法を提案し總商會の屏安江上峰胡鳳翔吳仲盛氏等より排日貨に關し責任ある委員會を組織する等の件につき提案し左記各項を決議して散會した

一、排日の委員會を組織す

二、上海各界は日本暴行及對委員會を組織する件

本委員會は左記二十一ケ團體より組織す

市黨部總商會、銀行公會、錢業公會、新聞記者聯合公會、學生聯合會、總商聯合會、婦女協會、商民協會、海關華員聯合會公會、警坤委員會、上海各大學學生會、國貨維持會、律師公會、總商會、郵務公會、閘北總商會、海員公會、報關公會、農民協會、納稅華員會、三、市黨部を會議招集の機關とす

四、代表大會は有力なる人物をあげて本會の振興をはかる

五、五月九日は弔旗を掲げ哀悼の意を表し市民は喪章を附けよ

六、學生聯合會は中央へ打電して民衆運動を開始すること

七、五月九日は市民大會を開催すること、若し軍機關の許可なくば各團體代表大會を開くこと

八、對日絶濟絶交の宣言を發表する件

九、日兵暴行をビノアの國際聯盟委員に報告し世界の輿論に訴ふること

十、五月九日は一切の娯樂會を停止すること

十一、第四師十三軍の李宗仁、程潛、白崇禧司令に打電して即時北伐に參加を乞ふこと

十二、二週間に一回日曜日を期して代表大會を開會すること

上海學生聯合會決議

對日策協議

又上海市學生聯合會は之よりさき六日午後一時緊急代表大會を開き

中大醫學院、新華藝術大學、惠群女中、上海中學、光華大學、大夏大學、暨南大學、東亞體育專門、勞動大學、中山公學、女治大學、中華職業、南光、復旦大學、清心、南洋醫大、民立、持志大學、亞東、東南醫大、東吳二中、紹商公學、滬江大學、南洋商業、中華藝大、群治大學、同文書院中學部、法政大學、大同大學、青年中學、培明女中、等各學校の代表集合し濟南事件の對日策を討議して左の如く決議した

（甲）對日主張

一、中央黨部に對し民衆運動の恢復を請願す

二、取敢ず日本との國交斷絶を中央に請願す

三、對日嚴重交涉を蔣總司令に電致し吾等後援となつて十電、讓歩せず

四、對日經濟絶交

（乙）宣言の發表

未次研究所

要目

一、全國同胞に告ぐるの書
二、海外同胞に告ぐるの書
三、日本の在野黨に告ぐるの書
四、世界民族に告ぐるの書
五、國際に告ぐるの宣言

（丙）本會の工作

一、第四集團軍に至急北伐進行を電請す
二、外交部長黃孚の外交不當にして直に調印せるは國權喪失に付中央に免職を電請す
三、反日運動委員を發起す
委員十名（暨南、交通、光華、大夏、復旦、南洋、醫大、法政、滬江、勞働大學、中央、成大、民立、復旦晉中、愛國女校、持志、法科）
四、各學校は七、八、九二日間課業を停止して反日宣傳に從ふ
五、此緊急の際校庭にて遊戲する學生は放學處分に附す
六、宣傳口號と標語
イ、經濟絶交を實行せよ
ロ、發表を避く
ハ、同上
ニ、上海の學生は武器を取て起ち死を誓つて日本軍の暴行に抵抗せよ
ホ、東亞の平和を破壞する日本の田中義一に反對し我國山東にて殺戮されたる軍民のために復讐せよ
ヘ、我國旗を侵し北伐を阻む日本軍隊を驅逐せよ
ト、中日間一切の不平等條約を自動的に取消を宣言せよ
チ、共產黨の內亂を煽動し反日的聯合戰線を破壞するを嚴防せよ
リ、誓つて國民政府外交の後盾となる
ヌ、外援と妥結して祖國に背叛する北方軍閥を打倒せよ
ル、寧ろ銃下の鬼となるも亡國奴にならず
ヲ、自由のために死し獨立のために戰へ
七、日本商品を抵制し國產を提唱す
共濟法は委員會にて決定
八、宣傳用紙に日本品を使用せず

未次研究所

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

要目

濟南城攻略戰の日本軍犧牲者

戰死八名、負傷者二百名

（濟南十三日發東方）濟南城攻略による日本軍犧牲者左の如し

戰死

歩兵大尉　小林清
歩兵特務曹長　篠原明

負傷

以下六名
歩兵大尉　三村親厚
歩兵大尉　藤森貞一
歩兵中尉　村田巖
工兵中尉　松山作三
歩兵少尉　百瀬末次
〃　谷間正貴
歩兵特務曹長　山口正太郎
〃　春原耕一
以下百八十七名

MAY 15 1928

北京

九日迄に判明した邦人掠奪戸數

商埠地内外八十一戸

【濟南十日發東方】濟南事件に於ける日本人の掠奪被害戸數は尙便衣隊の活動止まず調査完了しないが九日迄に調査濟みのものは

（商埠地内）普利門外一帶二六
緯一路附近八
講和街六
十王殿六
（商埠地外）大槐樹十六一
館驛街十一
其他十八

以上合計八十一戸で内四十六戸は屋根裏床板壁板に至るまで一物も殘さぬ慘狀で大體に於て大槐樹十王殿七馬路以南最も甚しく館驛街普利門外之れに次ぎ其他日本軍警備地域内の被害全體約十戸あるも守備區域内の被害は一戸もない

末次研究所

要目

北京を取つたら排日を始める

MAY 15 1928

京津　南京政府自重の魂膽

國民政府各要人の對滿問題件に對する意見は一致した

譚延闓氏は

(一)日本今次行動は純然たる挑撥作用に係るを以て吾人は其の狡計に中ることなれ

(二)蔣總司令の電報によるに本案は已に緩和せるを以て後方民衆は鎮靜なる態度を宜しとす

(三)日本に對しては斷然經濟絶交を實行すべし

(四)國際宣傳を擴大し世界の國情を喚起す

(五)宣戰を標語とすべからず日本帝國主義を打倒いるは其の工具たる張作霖を殲滅したる後に在り

(六)上記數點に照し宣傳に從事すべく各團體を召集し通電を發すべし

と主張した又某要人の意見は

(一)反動分子の惑亂を防止す

(二)帝國主義の糟口を防止す

(三)中央の決議を遵守す

(四)民衆政府援助の爲め積極的準備を爲す

と云ふにあり又某要人は往訪の記者に語つて云ふ

今次日本軍濟南に於て暴動し我軍民千餘名殺傷されたるは實に慘酷として人道無く國際公法に違反するものである但し吾人は此の忍ぶべからざる時に當り隱忍自重し一路北伐に努力し速かに北京に到達し然る後に一致排外すべきで此時偶然排日を行ひ若し其外の行動あれば適々日本の狡計に中らん蓋し日本の出兵にして其の對中國問題擴大すれば日本國民は外交問題に視線を移し其の個人に注意せず中は其の位置を保つを得べし故に吾人は努めて鎮靜を保つ新聞の記載も亦實情に據り推測的誇吹の記載をなし謂れなき紛糾を惹起することなき標注意を望む云々

蔣介石氏から軍隊の通過を

MAY 15 1928

京津　許して呉れと交渉來る

福田司令官拒絶

一軍隊の通過を許されざるならば食糧及彈藥の貨車通過を許可されたい

と交渉する處があつた、福田司令官は右に對し斷然是を拒絶したが、尙引續き接衝中であると

譚延闓氏

濟南へ向ふ

東京十三日發(東方)官邊への着電に據れば南京政府政治委員主席譚延闓は十一日濟南に向つた同地着後王正延と共に政務を執り日本側との交渉に當るだろう

右蔣介石の布告は徐州會議の結果に據るもので、南軍は此の布告の如く既定方針を變更せず北伐を斷行する最後の決定を見たが、是に伴つて蔣介石は濟南の我派遣軍に對し軍使を以つて南軍は濟南に停車せず通過せたき旨を希望し萬

末次研究所

日英米佛に代表を派遣し

濟南事件の諒解を求む

MAY 15 1928

北京　國民政府で決定す

【南京十三日發東方】十一日の國民政府會議に於て日本に張繼を米國に伍朝樞を英國に王寵惠を佛國に李石曾を派遣し濟南事件に關し各國の諒解を求めしむるに決した。

濟南の日軍及び日本人を攻撃するに決したから

支那人民は五十支里外に退去せよ

MAY 15 1928

北京　と……馮の名を借りた宣傳

【濟南十三日發東方】十三日濟南總商會に宛て

我等革命軍は濟南の日本軍並に日本人攻撃に決したから濟南の支那人民は全部一週間以内に五十支里外に退去せよ

との馮玉祥名義の電報達した。多分專ら人心を擾亂せんとする分子が馮玉祥の名を借りてした宣傳ではあらんか。一般支那人はこれが爲め戰々恐々たるものがあ

末次研究所

要目

MAY 16 1928

唯、呆れるの他はない

南軍の暴虐と無誠意さ

派遣部隊附參謀加野大尉談

京津、

河野參謀は今回派遣隊附として司令部の命を帶びて派遣されたのである。氏は歸還先發隊より一日早く、華山丸にて歸津の途に就き一昨日午前十一時太沽埠地に着いたのだが例の暴風で入港出來ず昨日を迎えた。沖合に出迎えた記者に對して氏は昂然と語る、

使用し赤十字のマークを狙撃し除外を無視する南軍は勿論我軍の敵として認めるべきである。我軍は可哀想だ。

氣恥しい次第ではないか、今回の交渉に一として誠意ありと認めらるべきものは全々ない。我交渉使を日本軍が殺したって？もだ支那側はそんな口を叩いてゐるのかい、馬鹿なッ。事件の發端かね。あの掠奪をしてそれを默認することがどうして出來るか。……南軍たるものには全く呆れ果てて物が言えない。佐々木中佐は可哀想だったが。中佐は泊つてゐるホテルの荷物まで掠奪されたのだから。今度の事件は何を言っても計畫的に挑戰されたものである。南軍は死傷者が多いので？我が軍はたゞ買はれた喧嘩だから應じたまでに過ぎないだ。

敗け方

仕方天晴れだった。

那家ばかり掠奪され

の家のみに限って掠奪した。天白日旗は南軍入場當時警備區域内にまで掲揚されてゐたのが四日の日にはずつと少くなり五日目には

一本も

見えなくなった、この邊も滿洞民と南軍との關係がいかに深いかを物語るものであるかと考える。滿南はすつかり平靜になった。住民は日本軍が永久に居れることを希望してゐる。市街には現在毎日二回普通列車が通じてゐる。市街は種々の風説もあるが平穏

末次研究所

要目

長劍を握つて京津の將校連の悲憤

忍び難きを忍んだ

自殺したかつた思出話

MAY 15 1928

驅逐艦内の酒盛宴に集つてゐる他の將校連は暴虐の南軍を邦人の仇敵として憤怒の血を沸つかせながら軍刀を各自握りしめて交々語るのだつた

何分南軍は不屈至極である入城當時のあの高慢々態度はどうだつたらう。先づ入場するなり俺れ等の面前で我が

國旗を

裂いて捨てた我々の面前に不穏ビラを叩きつけた。哨の面前に特に「小日本の帝國主義を倒せ」「對日經濟絶交」「不平等條約の撤廢」の十間先からでも見ゆるビラをベタ〳〵貼りつけた。そして日本軍の佈告文を消した何と云ふ

國恥だ

これぱかりでも吉良上野介よろしくの挑戦ではないか。それぱかりか入城したその夜日本語の判る一將校が俺れに向つて悠然として云ふではないか

「おい、君ぱ日本の將校だらう、濟まないがね風呂に入りたいと思ふから案内して呉れないか」あの時俺れは「馬鹿野郎」と大喝一聲し

と思はずこの鰯をしつかと握つた。お俺れは待てと思つた。ところが俺れの聲に驚いてかくる〳〵二三度堂々舞ひをして一散に逃げて行つてしまつた。あの時俺れは泣ひた。そしてこれをしも忍從しろと云ふ小泉隊長を怨んだ、何もかも了りだと思つて俺れは人氣のないところに行つた。何のために軍人になつたのだ、俺れは日本の

軍服を

着て生れたのだ、これに來たのぢゃ等と思つて來ると矢も稍も堪らず泣いてしまつた。よつぽど自殺しやうかと思つたのだがな

あ、俺れは全く今回の事變が起らずあのまゝ恥辱されたまゝすご〳〵と踵ねばならぬものなら自殺しやうと

決心を

決めてゐた。然しまあわの事變は天が日本軍を保護して呉れたのだ、少しだが幾分報復することが出來たのだからなあ。然し兵卒達はよく上官の命を聞いて克く働いて呉れたなあ。武裝解除されたあの時ぱ痛快だつたよ

武器が耳に積まれて來るわ

感ぜきを期する事となつた

末次研究所

南軍のタムタム弾で、始末の惡い盲貫銃瘡

MAY 6 1928

戰死五、重輕傷十七名は助から、

京津　西山軍醫虐殺邦人を檢案

西山一等軍醫は語る南軍がダムダム弾を使つてゐたのは事實である、今回の事變で死傷した我が軍の兵士は貫通銃創はなく皆盲貫銃創で

銃創で　弾が體内に殘つてゐるので私等としても大いに心配した。原因はダムダム弾の他に毒惡質の弾を使用してゐたのと銃が鈍いためである。それとも一つは南軍の兵士が震えながら射つたことにも原因する、と思ふ。何分負傷者が出來たと聞いて直に收容加療すべく赴いたがその道に猛射を浴びて甚だ危險だつた。

赤十字　の腕章、赤十字の旗も彼等暴兵にはなんともこたえないのである。

第六師團の方面でも同成り死傷者を出したが何れも弾の素質が惡性なため心配した。この點から見たゞけでも南軍は正に人道の敵である虐殺者の檢死をなしたが實に何と云つていゝか云ひ表せない。

虐殺振　りであつた。その事に就いては除り聞いて下さるな（と昂奮の狀まざ〳〵と見られる）天津部隊の死者は五名、負傷者は重輕傷者合せて十七名である。今の模樣では皆生命に別條はないだらうが若干の不具者になるは免れ難いだらう

末次研究所

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

要目

天晴れ天津軍・傷つきながら

涙ぐましい奮闘

京津○……石井中隊長談

MAY 16 1928

今回は皆がよく共力一致した、全く敵る南軍の機先を制して出発をくいたので面喰つて度肝を抜かれたらしかつた。何分天津軍の武力としては重輕機銃だけである。あとは腕で行かねばならない、

意氣で

行かねばならなかつた。塀や家の中から一斉射撃するのだがすつかり三日の日の戰ひで南軍の射つ弾は當らないと云ふ自信をつけてゐた兵士等の勇敢さは當るべからざるものがある。これに對峙して戰つて居ては間に合はない、太底の場合これには三四名隠戰させて置いて大部分雲霞の如き兩軍の中に抜劍して

銃劍で

躍り込んで行つた人間と云ふものは妙なものである。南軍のあの亂射の中を躍り込んで行つた者で戰死したものは一名もない。涙ぐましい兵士の談をと云ふのですか？みんなが涙ぐましい奮闘をしましたよ。殊に重傷を負つて今濟南病院に入院してゐる島居上等兵の如きは邦人の

死體を

見て奮立てく立いたことであつたが、城内掃蕩の時折敵の横丈で戰してゐた時に敵弾が左肩部に命中した。血がだらだらと流れて來る。それでも傷付いた肩に銃を支えて射撃をしてゐる「おいやられたかい痛いだらう、ひどくやられたな」と声をかけると「何大丈夫です」と射ち續けてゐる。が肩の

痛みに

耐へてか銃がやゝもすると肩口に支へ切れないつしや大丈夫です」と云ふが左手がぶるぶる動かなくなつたらしい。その内に南軍は益々猛射を浴せる。危險だと見たから「退れ」と命令した。皆が一斉に退つた。然し島居上等兵だけは

血塗れ

になつて尚も自由にならない左腕に確乎と銃を握つて奮闘してゐる「危險だぞ、退れと云つたら退れ」私は後には叱りつけた。が「大丈夫です」と一言のみで弾丸飛雨の中を蠢いてゐる。私は氣が氣でないのでそれを抱きかゝえて退らせるとき、不圖見ると頬に涙を一杯浮べて泣いてゐるのだ「お前はツ」と叱りつけると「中隊長殿まだ大丈夫です、もう銃砲は射てますまいが看守なら出來ますお願ひですから病院に行けなんて言はないで下さい」私はこの勇ましい言を聞いて彼を抱いかき思はず涙を流した

駄目だ

病院に行け

末次研究所

MAY 16 1928

暴兵邦人を掠奪……の飛報

遂に軍刀は血塗らる

日支兩軍衝突、交戰の發端に就て

京津　久米川中尉感激し追想す

昨朝六時、運輸部の好意によつてランチに同乘、大沽錨地四理沖の驅逐艦を訪れた際、塘沽へ航行中の驅逐艦内に於いて記者は親しく當時の有樣を聞くことが出來た。以下壯烈な談話の數々である。

久米川中尉は事件勃發の發端たる商車の掠奪を制止せんとして發砲された人であるが中尉は次の如く語る

三日十時頃私等は兵卒と共に折柄の暑さにシヤツ一枚になつて臨津の準備に忙殺されてゐると突如

飛來し　た一邦人が我が警備區域内の邦人宅を支那兵が掠奪中なりと報知して來たので容易ならぬと見て突差の場合兵約一個小隊を組織して行つてみると一人の日本人がさんざん毆られた挙句三四十人の商車が發端たる商車の掠奪を制止せんとして發砲された人であるが中尉は次の如く語る

三日十時頃私等は兵卒と共に折柄の暑さにシヤツ一枚になつて臨津の準備に忙殺されてゐると突如

飛來し　た一邦人が我が警備區域内の邦人宅を支那兵が掠奪中なりと報知して來たので容易ならぬと見て突差の場合兵約一個小隊を組織して行つてみると一人の日本人がさんざん毆られた挙句三四十人の商車が

それを囲んで短銃をつきつけ正に

射殺さ　れんとしてゐる危機一髪の際である（この邦人は急を聞付けて私等の）

先き　制止のため出動した商車は巡査であ

した　商車は商出巡査であ

事必　後で判決をつけ私はこ

れを見て直ちに極度に怒り

大喝　一聲「待てッ」と怒鳴

る　と支那兵は

日軍來　ると知つてかどッと家外に飛び出して逃げた。私はこのまゝに放任する譯にゆかないのでその兵士等を追つて行くと假兵營に逃げ込んだ。その時人口には數百の如き商車が各自銃をつきつけて身構えてゐる、私は今逃げ込んだ兵を渡せと

強硬に　談判しつゝあるとすいきなり正面から發砲した。續いて背がどつと一齊に發砲する頃早くもトラックで商車が連ばれて來る附近一帶からも發砲するのである。生意氣なと思つた私は止むなくわつと逃げて身構えこれに應戰すると共に應援を求めるため一名の傳令を走らした。あれだけの

軍隊も　あれだけの射撃を受けたのに兵一人死なずかつたのは天祐である、そこに蘭波大尉の應援隊も來

茲に　於いて私等は面倒臭いからと云ふのと一応應戰しておけばたまらないので兵營を包圍してしまつた。そして私は單獨商車の兵營内に飛び込む、續いて他の兵士も飛び込んで來た。將校らしいのが盛んに

指揮し　てゐるので停止しろと云ふが反抗して來るので、畜生ッと思つて私は指揮官らしいのを三四名叩き斬つた。すると士官が斬られたのに吃驚してか部下は震え上つてゐるのだ。それから可成りの危險と戰つて武裝解除にかゝつた譯である。確かに奴等の出鼻をくじいたと云ふことがわかつたのは天祐である、その危險な小數の味方、大部隊の敵を武裝解除し得た原因である。

末次研究所

目

外務陸海軍の大協議で軍事的要求五項決定

直ちに福田司令官に訓電

MAY 16 1928

北京

（東京十五日發東方）濟南事件に對する蔣介石の回答に基づき外務陸海軍當局は十四日午後外務省に於て八時間に亘る大會議を開き日本の軍事的要求事項を左の如く決定本日の閣議を經て直ちに福田軍司令官に訓電された。内容左の如きものだ

（一）蔣介石の正式謝罪

（二）賀耀祖外若干の暴力指揮者嚴罰

（三）武裝解除兵は直に釋放するも携帶武器は適當なる時機に於て別に返還す。

（四）濟南青島並に山東鐵道沿線二十支里以内では南北交戰を許さざるは勿論事態平靜に歸するまで武裝兵の交通並に右區域内に於ける宣傳その他軍事的施設をなさざる事

（五）支那側交渉代表は日本軍司令官との交渉に際し蔣介石の正式委任狀を提示すること

尚居留民及び軍の被害に對する賠償並に陳謝に就ては追つて外交的交渉を行ふと

末次研究所

要目

MAY 16 1928

「日本の要求を承認すれば」

北京　濟南通過北上をも許す

（東京十五日發東方）政府は本日の閣議で支那南軍の濟南驛通過條件に關して協議した結果日本政府としては南軍の北進を阻止する意思は毫もないのだから（膠濟線は濟南青島聯絡上通過せしむることは出來ぬが）津浦線に就ては南軍が誠意を示して日本の要求五、個條を承認し且つ居留日本人その他に危害を加へぬことを誓約する場合は南軍をして濟南を通過せしむることに決しその旨福田司令官に訓電された。

末次研究所

MAY 16 1928

排日運動を默視煽動する
矛盾多き奉派の態度
南方は反つて冷靜で峻嚴に取締る
京津　北方軍閥臨終の苦肉策か

北京十五日發〔支局〕濟南事件以來北京の對日反感は未だ極點には達しないが漸次惡化しつゝある事は事實で久しく當局の壓迫によて集會結社の自由を封せられてゐた學生團も連日排日陽議會を開き、既に日本に對し挑戰的の宣傳を發するやら各學校一樣に半旗を掲げるやら狀態は可成り惡化しつゝある文方文化事業の

支那側

委員までが解表を出すといふ騷ぎでこの反感はこれからいよ〳〵擴大し深刻化してゆくものと思はれる。これに反し事件の當の相手方たる南京國民政府は出來るだけ民衆の對日反感抑制につとめてゐる民衆運動には從來傾倒に反感をもちこれを壓迫して來た北方政府の都において排日傾向が放任されその反感的感情が激成されつゝあるに對し南方政府がそれと全く反對な方針をとり排日をするのは統一すること威嚇し鎮靜に努力してゐるその原因は何かと言へば、北方では奉天派初め交通系、研究系　外交系等の幾多諸綜せる分子が南方との妥協を圖るといふ前提の下に

攻略的

作用が行はれてゐるからであつて、南方では革命軍の最終目的たる北伐の完成に胸が燃えてゐるからである、南京政府の濟南事件に對する目下の態度は

第一、革命軍の目的たる北京占領、換言すれば北伐の完成を期するといふ決い堅心から

第二、日本と歐に廻し北伐を妨害されることは不利である

第三、南方に於る排日運動を放任すればその間に共產主義が入り込んで種々な攪亂策をめぐらし、それがために革命軍の事業が覆される

等の理由から出來るだけ、民衆を鎮撫して對日感情の勃發を防がんことに力を注ぎ、一方濟南事件を平和裡に解決せんとの意向をもつてゐる模樣である。しかし南方政府の

眞意は

「先づ北伐を完成し、濟南事件の外交的交渉はその後に廻す」といふにあるものと見られる。從つて北伐完成の上今日通りの態度をもつて濟南事件に臨むものかどうかまだ分らない。しかし北伐軍が北京を占領すれば兎に角彼等が多年のあこがれである全支那の政權がその手に歸するものであり、こゝに國民政府の承認といふやうな問題も起り日本との國際的關係はいよ〳〵複雜を加つてくるから無茶を張り通すといふやうなことは成し難いことだと推測されていでもない

北伐完成までは飽迄忍容する
新聞班を上海に派遣
國民政府愼重を說

上海十四日發〔東方〕國民政府は今回の濟南事件に鑑み新聞班を組織し上海に派遣した之等新聞班の意見は支那紙に發表されてゐるが要旨は左の如きものである

一、北伐完成するまでは且つ日本の挑戰に對し飽迄愼重の態度を執ること

二、最短期間に北伐を完成し國論を統一し國權を擴張する事

三、對外的に實績を擧げる事

四、濟南事件の眞相を世界に布告して輿論を喚起すること

五、國民の意見を尊重し學生に軍事教育を施し一般人民の武力培養を行ふこと

末次研究所

目　要

MAY 21 1928

蔡交涉使事件眞相發表

支那側の逆宣傳に對して

國民　今日外務省から

南京政府は濟南事件に關し蔡交涉使事件を以て唯一の宣傳材料とし濟南事件に關する日本の地位を著しく不利ならしむるに努め蔡交涉使事件を以て國民政府と日本との間に對する惡感を著しく顯著なるものあり、帝國政府としても黙過すべからざる事となつたので軍部、外務省當局協議の結果、外務省亦情報部長は廿一日午後在京の外國通信員全部に對し左の通り同事件の眞相を報道する事となつた　△

五月三日突然支那軍の襲撃により起つた日支兩軍の衝突に際し歩兵第四十七聯隊の第九中隊はその警戒防禦線であつた四馬路に向つて前進しようとしたが其の附近は既に支那軍の占領する所となつてそのあたりに彷徨を繰へた支那軍は一斉に街路の上を乱射して進む事が出來なかつたので止つて之に應戰した

△

所が此の日本軍の敢闘した右側に當所らしい門のある家があつたが、此の家の二階から絶めに日本軍を見おろして射撃する者があつて為だ危險であつたので其の後方二十米ばかりに居つた中隊長は傳令をして二階の上の敵に對して應戰を命じたが、中隊一番目の兵卒中の一名は腹部を射ぬに貫通した彈の爲戰死した、中隊長は一分隊を指揮して門内に入つて之を攻撃し、階上の敵と交戰し白石と云ふ一等卒が又二階より撃ち下す敵彈に重傷を受け後死亡した、そして此家に立て籠つた支那軍は形勝の位置を占めた二階から頑強な抵抗を續けたので、此の中隊は正面と側面に敵を受けて苦しい戰ひをした

△

其の内に停戰の命令が下つたので射撃を中止し分隊を整頓してその命令を待たうとしたが、支那側は射撃を止めない、けれどもこちらが應戰しないので自然に後退ュ暴かになつた、次の命令に依ると支那軍は商埠地から出て行く筈であるから妨げる者なく暴かにして待てとの事であつたが一向に動かない、夕方になつて街道の上の支那軍は皆引き揚げて來たが、家の中の者は其のまゝ續つて居り、我が傳令が往復すると此處彼處の窓から狙撃するといふ有樣で之がために負傷する者も少くなかつた

△

そこで日本軍は力を以て家の中に續つて抵抗する兵群を一掃することを支那軍に通告して家々を探し調べる事にした、小隊長が三名の兵卒と此の家に入つて家の中を捜索すると、突然地下室から射撃を受けたので直ちに少隊を招いて攻撃し、抵抗した十六名を射殺した、そして此の地下室には銃器彈藥の多數を發見した、暫らくして中隊長も巡視して死屍は其の附近に埋めさした

△

其の後に於て此家が交涉署一家であつた事、蔡公時と云ふ交涉員が此家にあつたと云ふ事であるが、戰鬪中に對敵行爲をなせる家に對する攻撃は當然であり又兩軍首腦部の停戰規約に反して家の中に殘留し、加ふるに我軍に危害を與へたる者を攻撃するは正當防禦であつて之又當然の事である、そして又交涉員として日本軍との間に往復したのは勇敢であつて、蔡と云ふ交涉員の事などは日本軍は何も知らぬ

△

從つて此の最後迄日本軍を煩はした此家に交涉員とも云はるべき人のあつた事は信ぜられない若し果して此中に居つたとすれば誠れる兵群を指揮した敵對者であらねばならず若し然らずとも殘兵の抵抗と共に負傷重死する事は當時の狀況上止むを得ないものといはねばならぬ、そして尚ほ之等殘兵に對しても常に先づ武裝解除を勧めて平和的に處理し、從はざるものは力を以て解除し、抵抗する者は之を撃つと云ふ風にしたので、此間何等暴虐の振舞などなく中隊長は一々當極して居り、支那軍のなせる如き耳を切り鼻を殺ぐなど殘虐極まる行爲のなかつた事は親しく臨檢し目撃せる中隊長の責任ある報告である

末次研究所

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com